

# 認定心理士アンケート調査 報告書

---

2015年3月



# I. 調査の概要

## 1. 目的

認定心理士の皆様のご意見，ご要望，現状を把握することで，日本心理学会の活動を強化し，認定心理士制度のより一層の充実とサービスの向上を図るための方策の推進の資とする。

## 2. 対象

認定心理士資格所有者

## 3. 調査の方法・回収数

アンケート用紙を郵送によって発送し，返信用封筒にて回答を回収した。

対象者数：36507人（2015年1月時点で郵送が可能な心理士資格所有者全員）

回収数：7709通（回収率21.1%）

## 4. 調査期間

2015年2月1日～2月20日（最終締め切りは3月10日 約5週間）

## 5. 調査項目数

以下の領域から構成し，全18項目であった。

- （1）認定心理士取得時の大学等
- （2）就業の有無・職種
- （3）仕事と心理学の関係
- （4）認定心理士資格の取得時期
- （5）認定心理士資格取得申請の方法・動機
- （6）認定心理士を知った経緯，すすめの有無，申請の方法
- （7）認定心理士のメリット，認定心理士会に望むサービス
- （8）所属学会
- （9）新設する「認定心理士部会」「認定心理調査士」への興味

## Ⅱ. 調査の結果

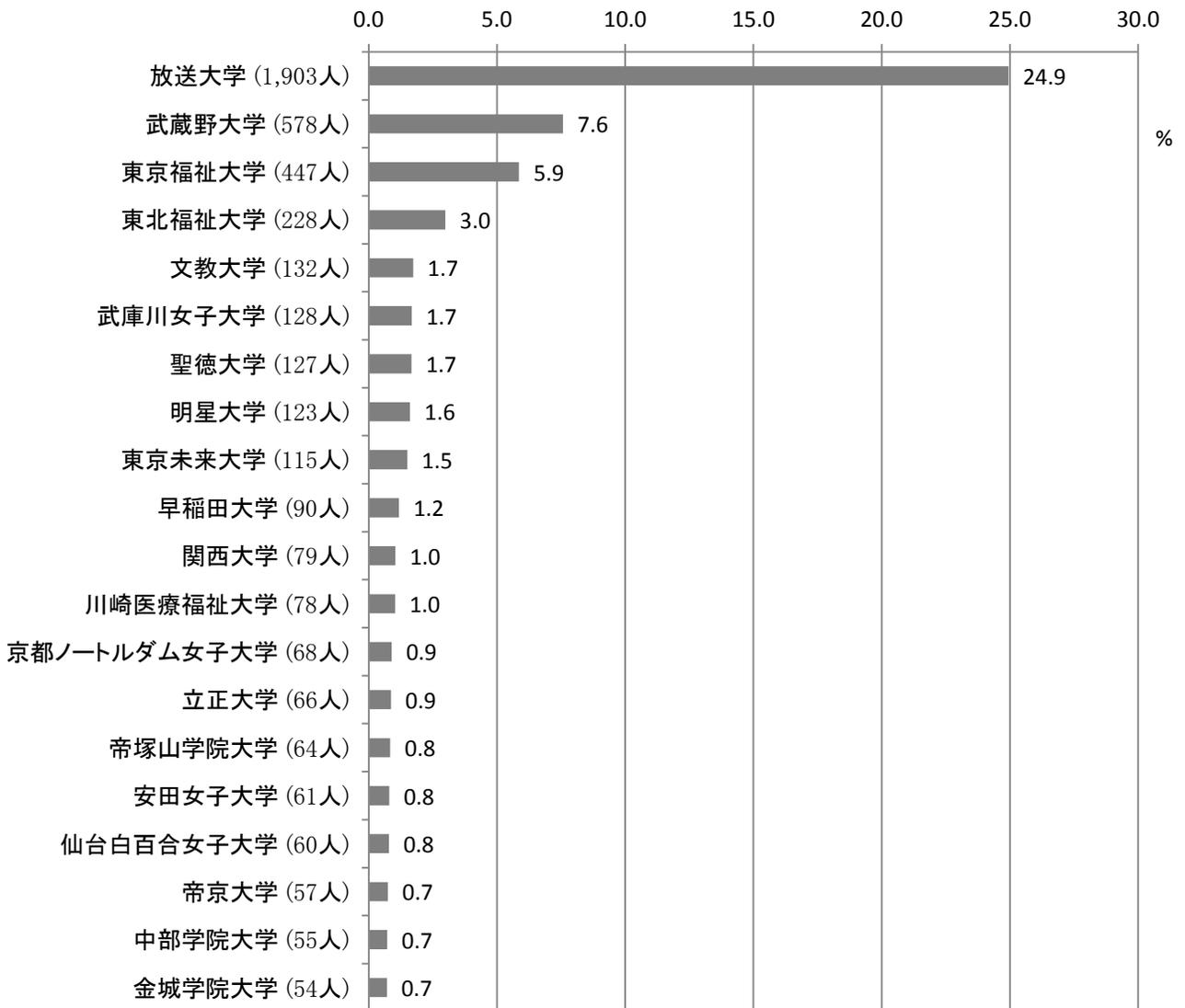
### 1. 認定心理士資格取得時の大学等

認定心理士資格取得時の大学等は、全337校であった。1校あたり平均23人・標準偏差112であった。

人数の上位20校をまとめたものが下図である。

もっとも多いものは、放送大学の1,903人で24.9%と全体の1/4を占めた。

問1 あなたの認定心理士資格取得の際の大学を教えてください。



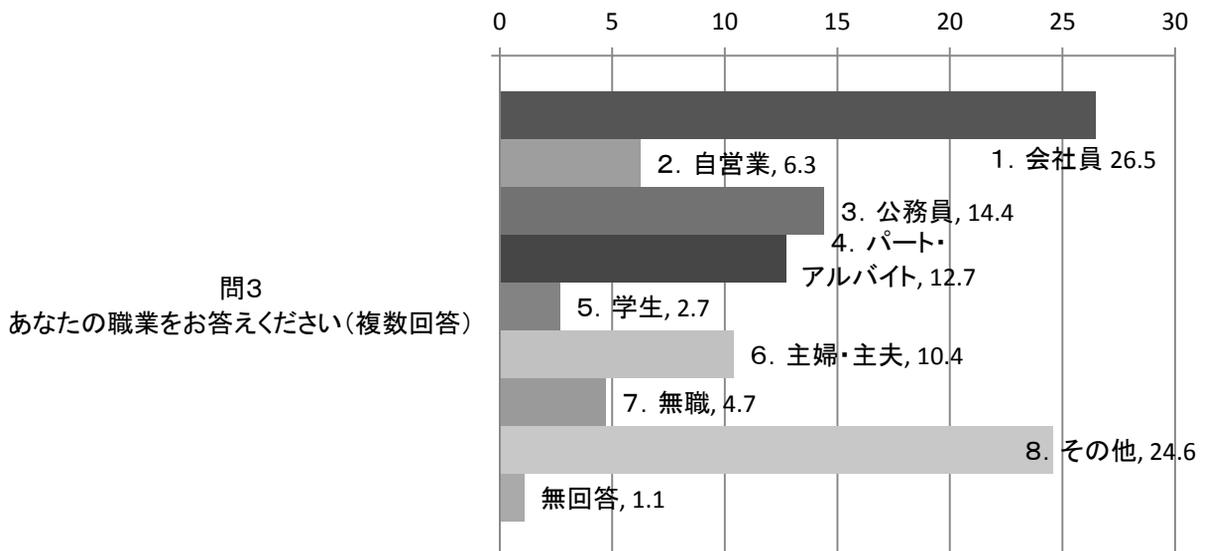
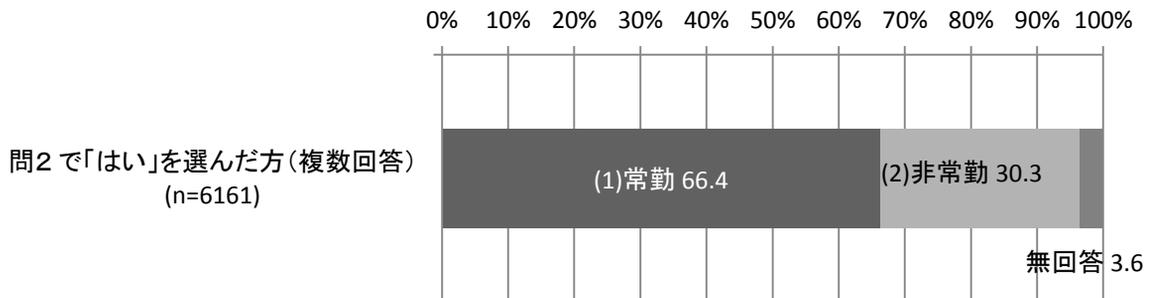
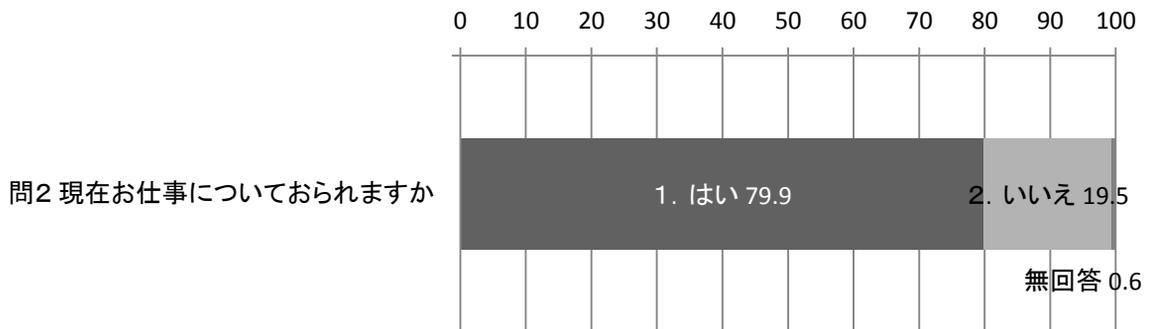
## 2. 就業の有無・職業

現在の就業の有無・職業をまとめたものが下図である（数値は%）。

仕事についている人は約8割であり、そのうち7割弱が常勤である。

職業としてもっとも多いものは、会社員とその他であり、それぞれ約1／4ずつを占める。

その他には、教員・団体職員が多く含まれる。



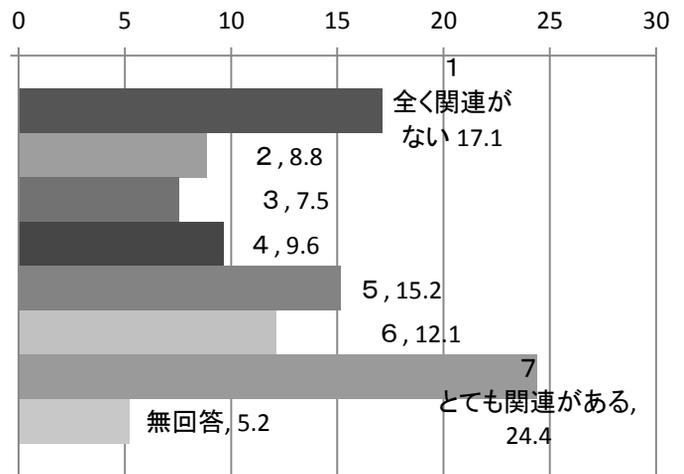
### 3. 仕事と心理学との関連

仕事と心理学との関係等についてまとめたものが下図である。

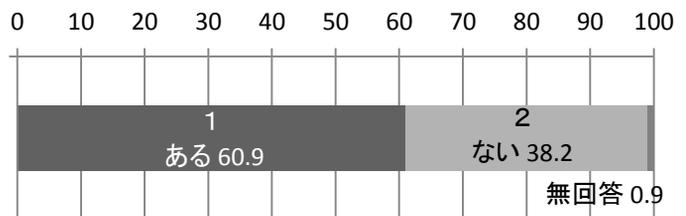
仕事と心理学の関連については、「7. とても関連がある」が24.4%と最頻で、ついで「1. まったく関連がない」の17.1%であった。関連がある人となない人が多く、中程度に  
関連している人が少ない。

心理学を活かした仕事をしたことがある人は6割で、職種は多岐にわたる。

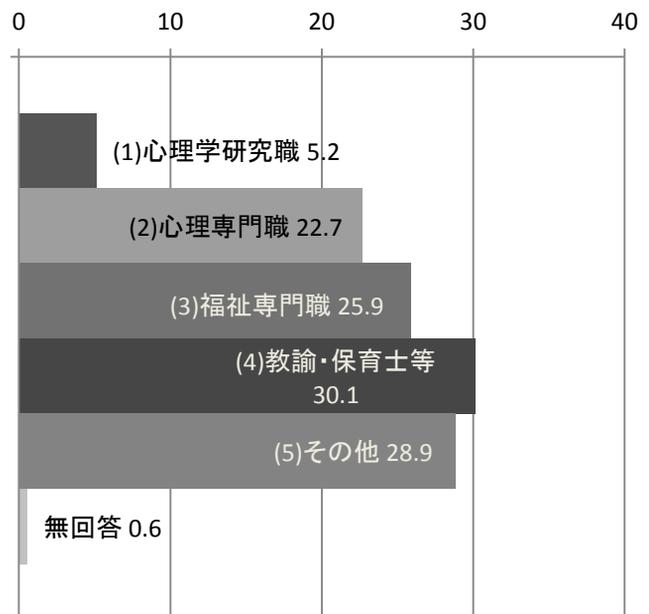
問4  
現在のお仕事は心理学とどの程度関連がありますか  
(平均4.38 SD2.22)



問5  
あなたは今までに心理学をいかした仕事をされていた  
ことがありますか



問5で「ある」を選んだ方(複数回答)(n=4698)



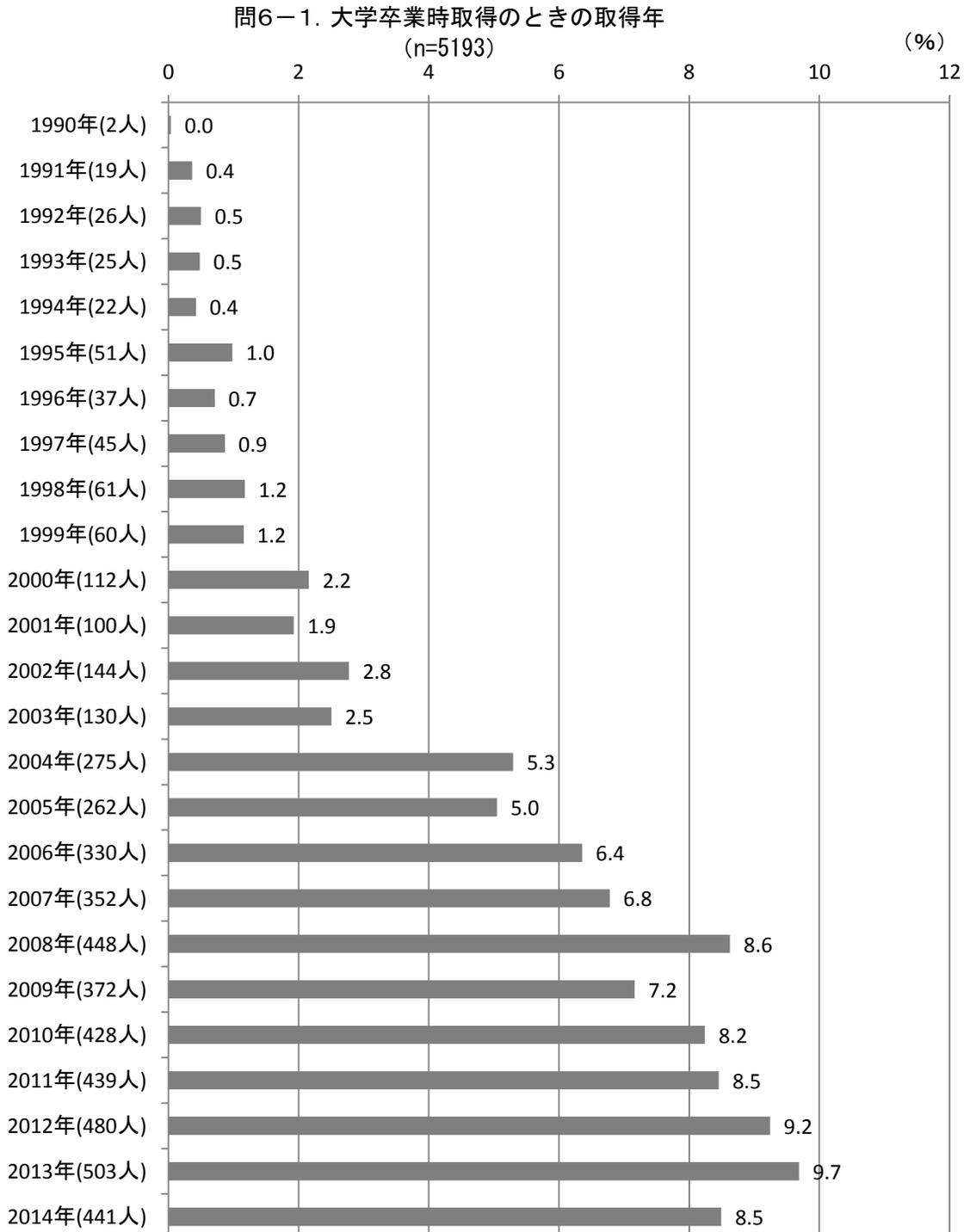
#### 4. 認定心理士資格の取得時期

##### (1) 大学卒業時取得

大学卒業時に取得した人は5193人（67.3%）であった。

取得年をまとめたものが下図である。

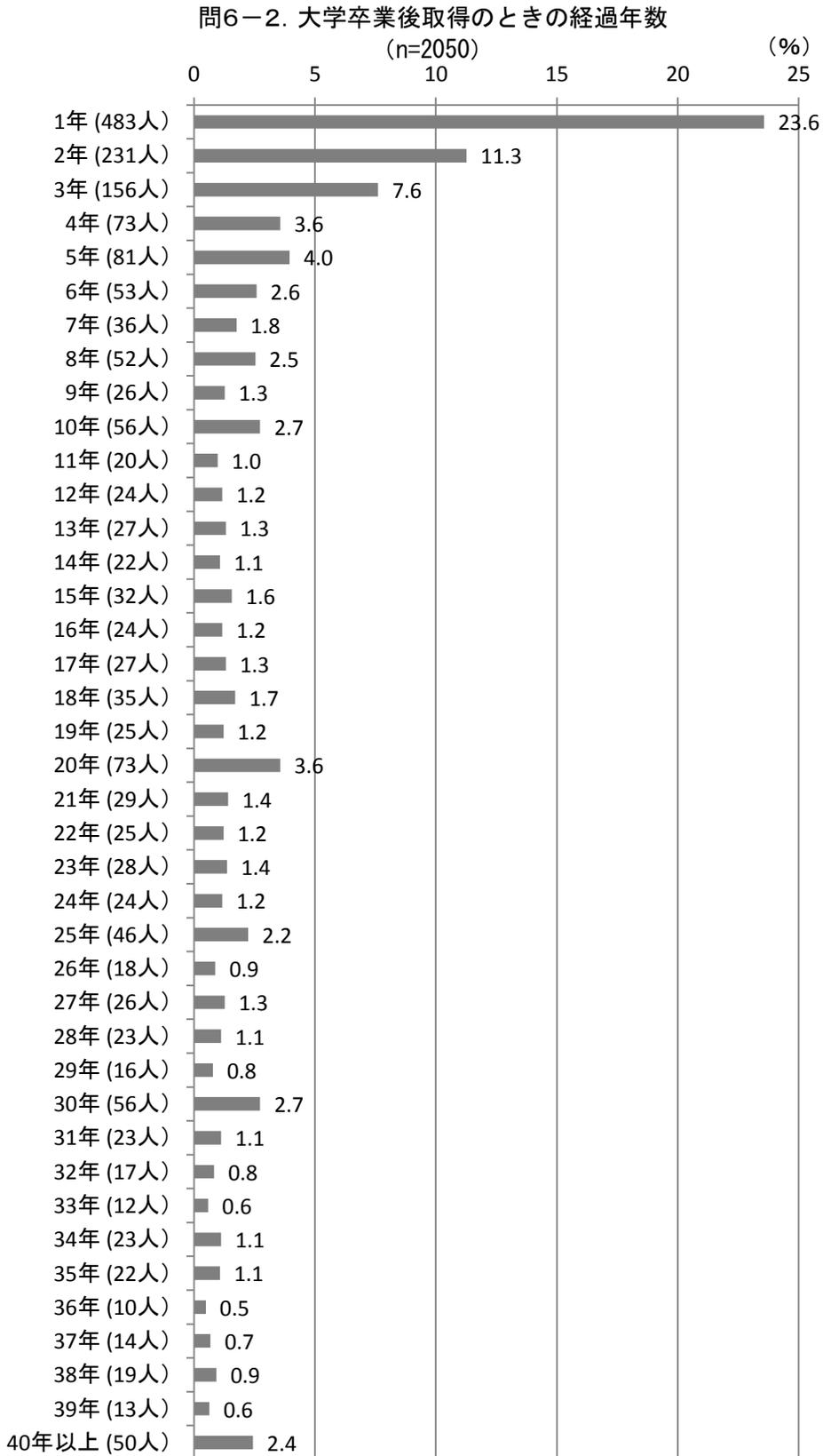
2004年に取得者数が急激に増え、以降毎年増加する傾向にある。



(2) - 1 大学卒業後取得年

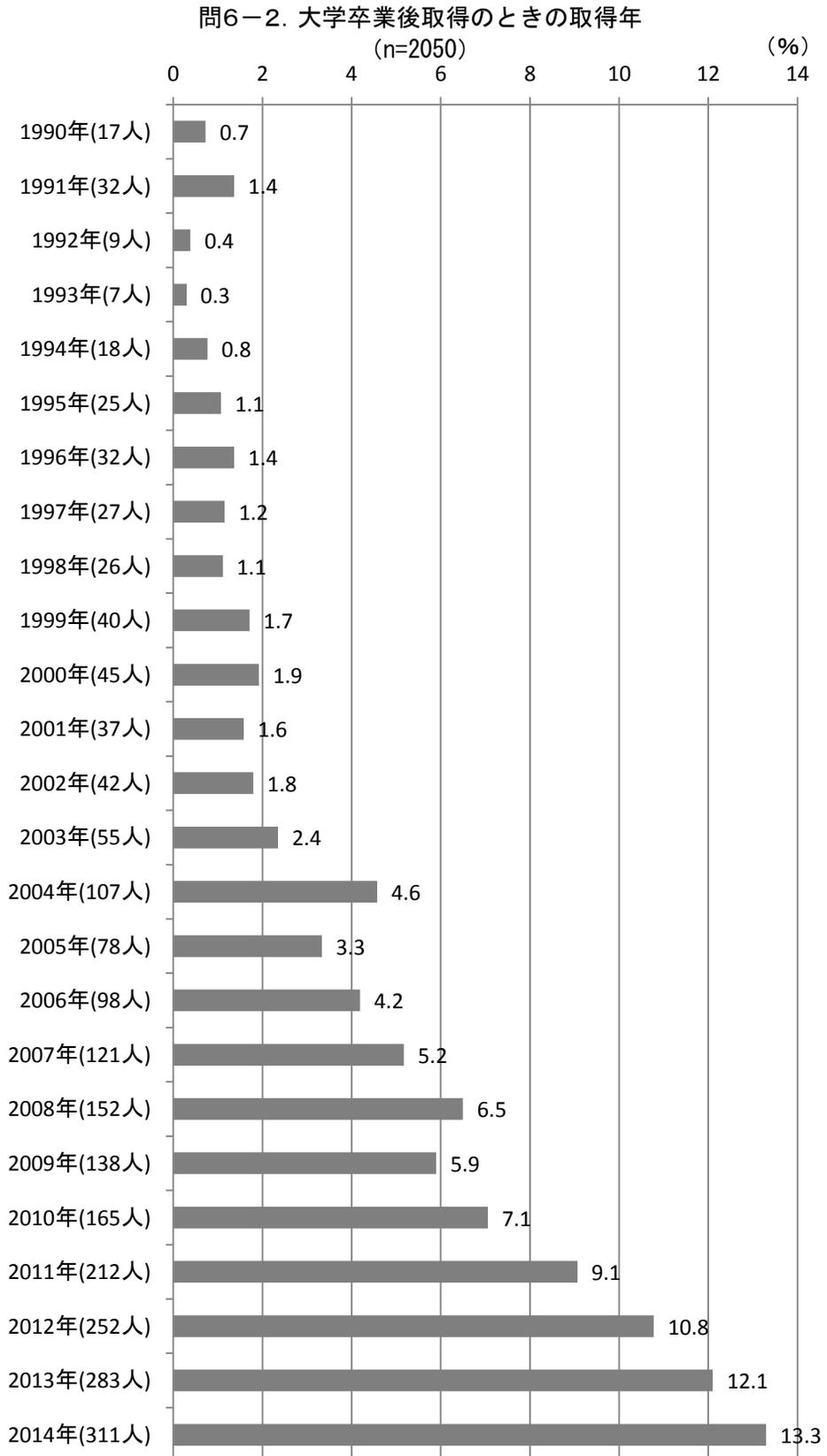
大学卒業後に取得した人は2050人（26.6%）であった。経過年数をまとめたものが下図である。平均経過年数は11.7年，標準偏差は12.2であった。

卒業後1～3年間で取得する人は42.5%を占める。



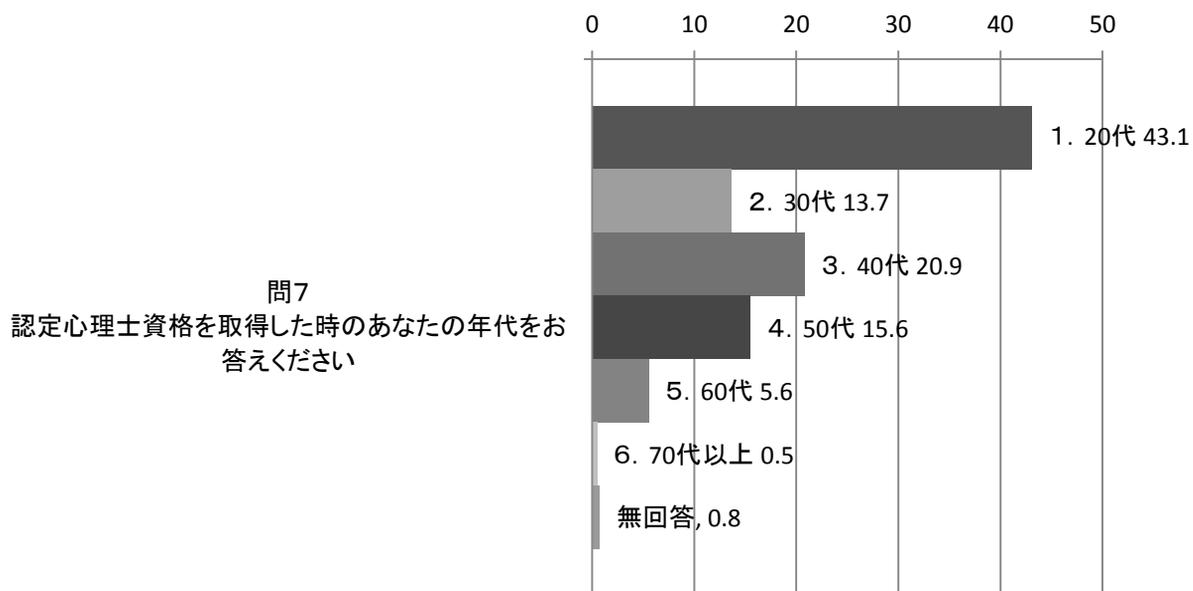
## (2) - 2 大学卒業後取得経過年数

大学卒業後の取得年をまとめたものが下図である。最頻値は2014年の285人（13.3%）であった。近年になるほど、大学卒業後の取得者が増加する傾向にある。



### (3) 認定心理士資格取得時の年代

認定心理士資格取得時の年代（年齢）をまとめたものが下図である。最頻値は20代であり，全体の43.1%を占めた。

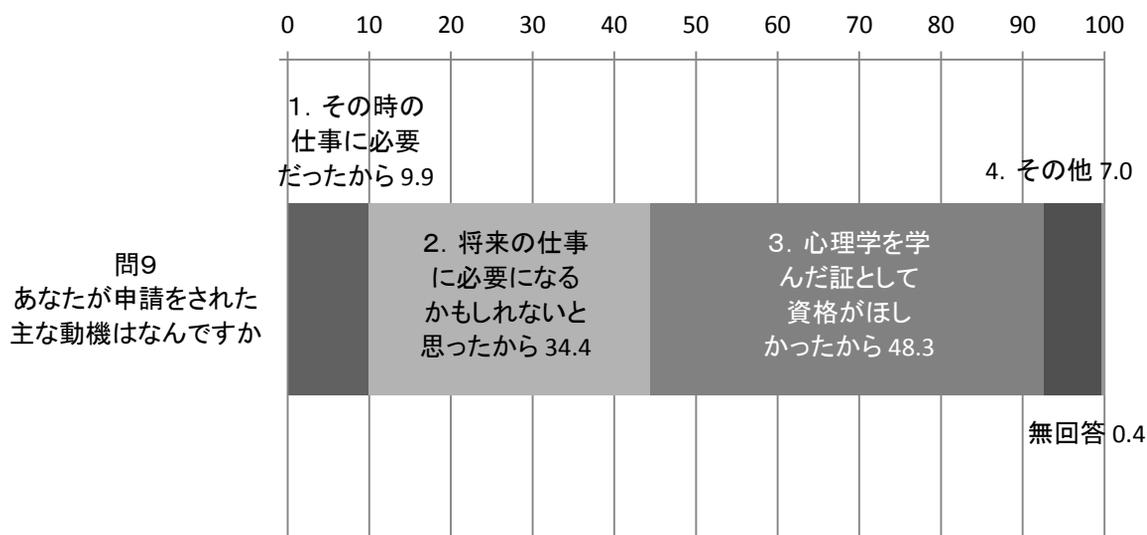
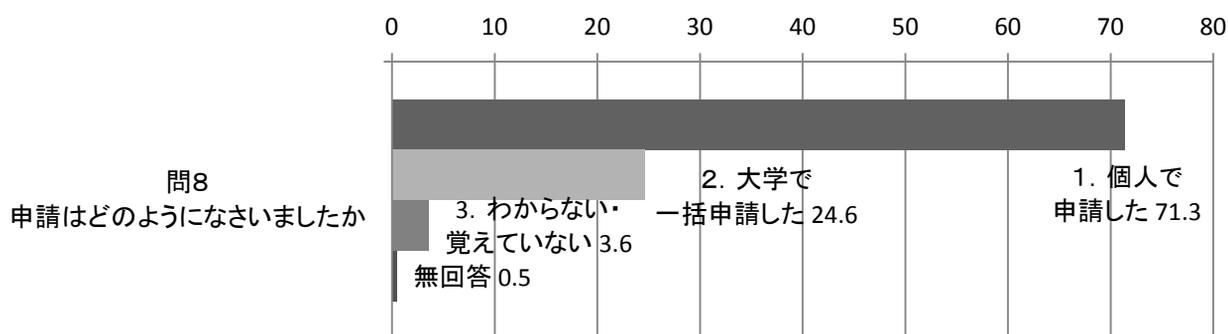


## 5. 認定心理士資格取得申請の方法・動機

認定心理士資格取得の方法・動機をまとめたものが下図である。

申請方法は個人での申請が71.3%を占め、ついで大学での一括申請が24.5%である。

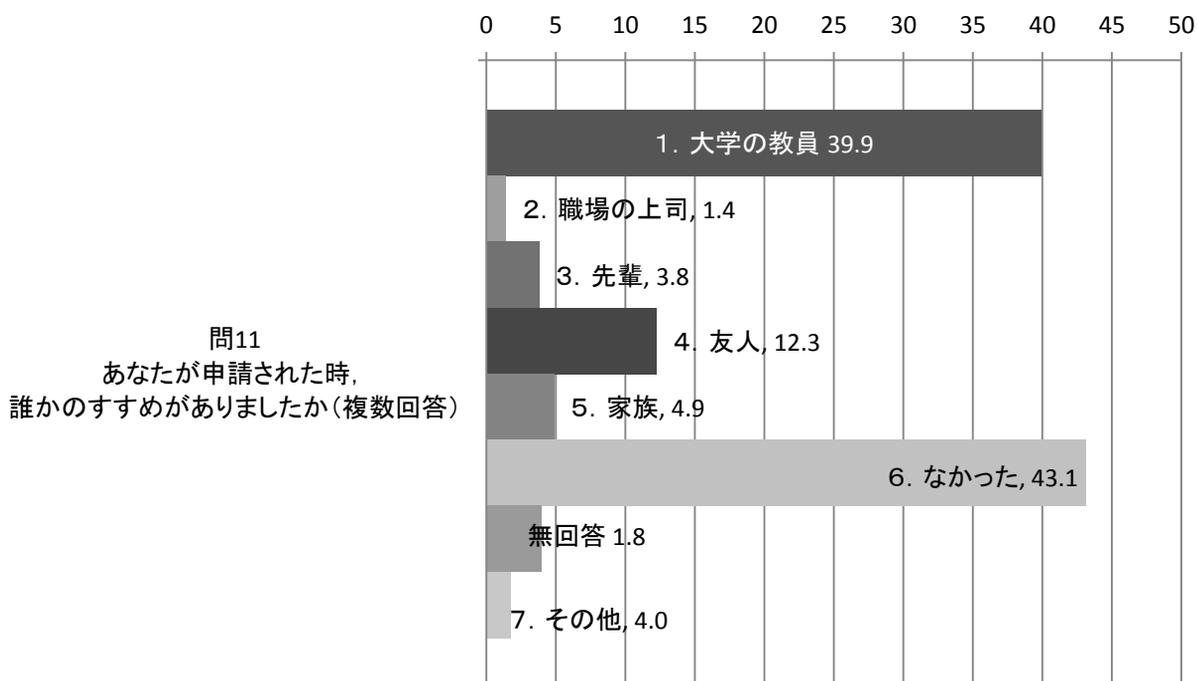
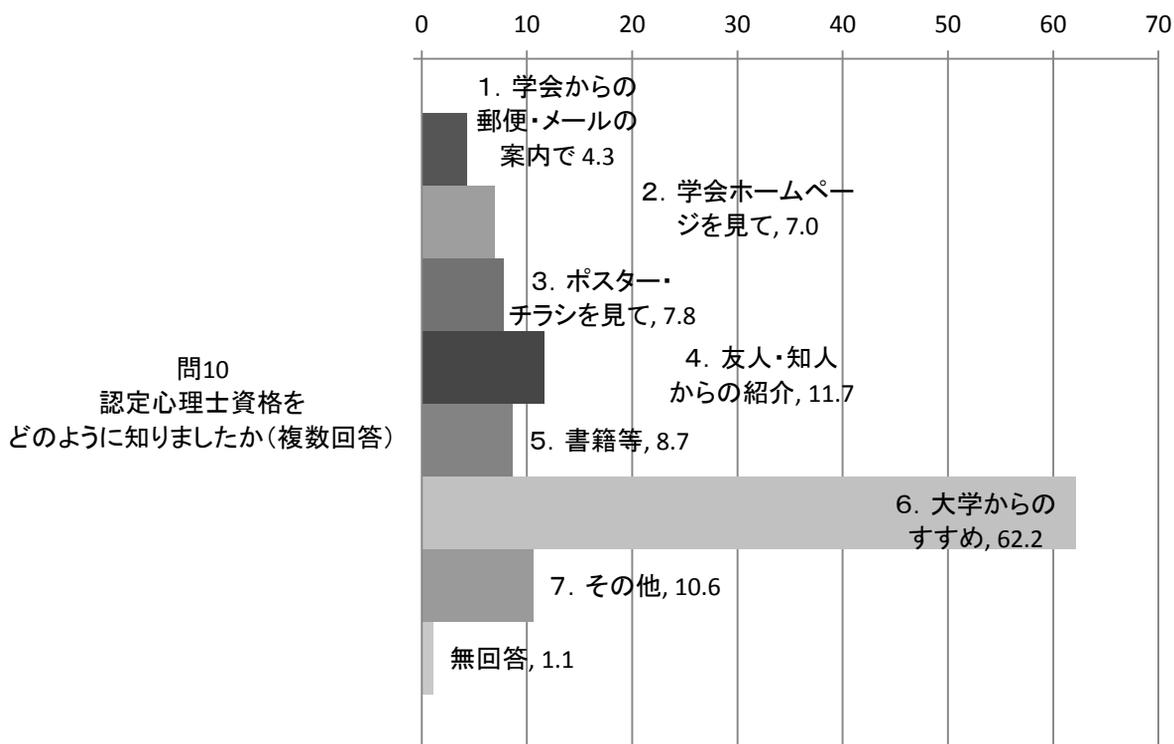
申請動機は、「心理学を学んだ証として資格がほしかったから」が48.3%と半分を占め、ついで「将来の仕事に必要なかもしれないとおもったから」が34.4%である。なお、「そのときの仕事に必要なだったから」は1割程度である。



## 6. 認定心理士資格を知った経緯・すすめの有無申請の方法・動機

知った経緯では「大学からのすすめ」が最頻で62.2%を占める。学会からの各種の案内については1割未満である。

資格取得のすすめは、「なかった」が43.1%，大学の教員が39.9%であった。

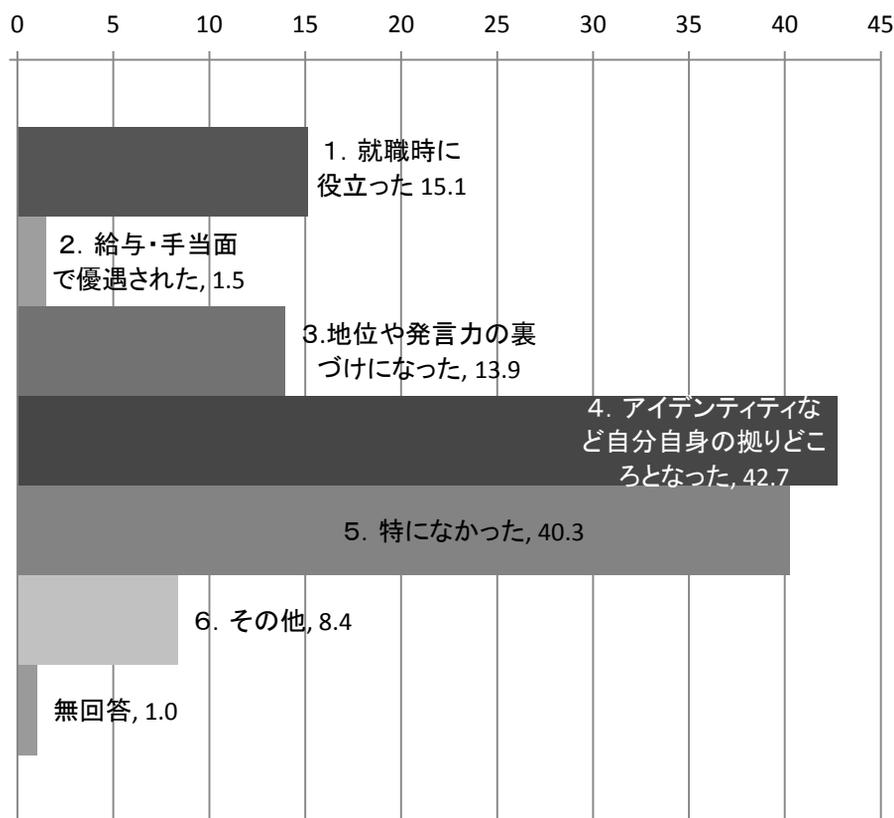


## 7. 認定心理士資格のメリット、認定心理士会に望むサービス

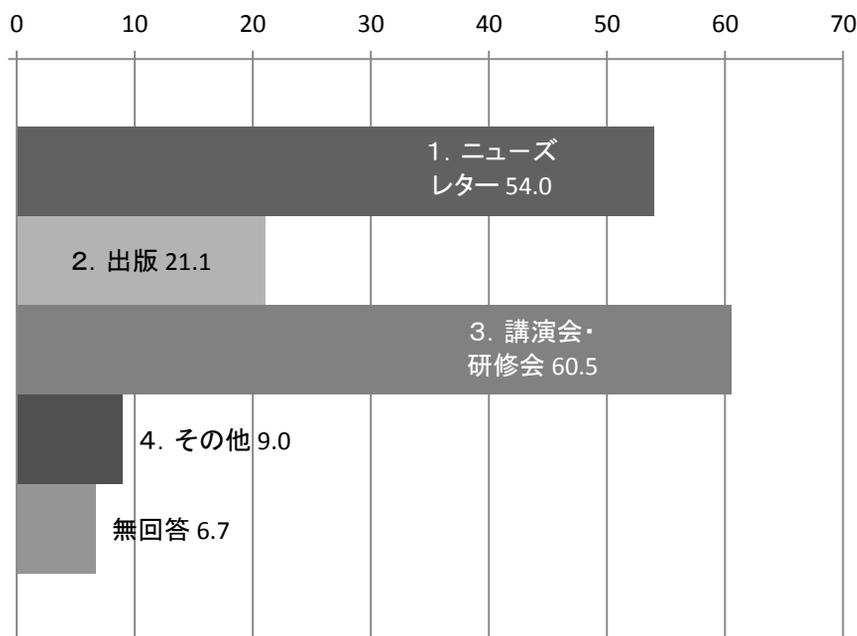
メリットとしては、「アイデンティティなど自分自身の拠りどころとなった」が42.7%、「特になかった」が40.3%と多くを占めた。「就職時に役立った」は15.1%であった。

認定心理士会に望むサービスは、「講演会・研修会」が60.5%、「ニュースレター」が54.0%であった。

問12  
認定心理士の資格をもっていることで  
これまでに何かメリットがありましたか  
(複数回答)



問13  
認定心理士に日本心理学会が  
提供するサービスとして  
どのようなものを望みますか(複数回答)

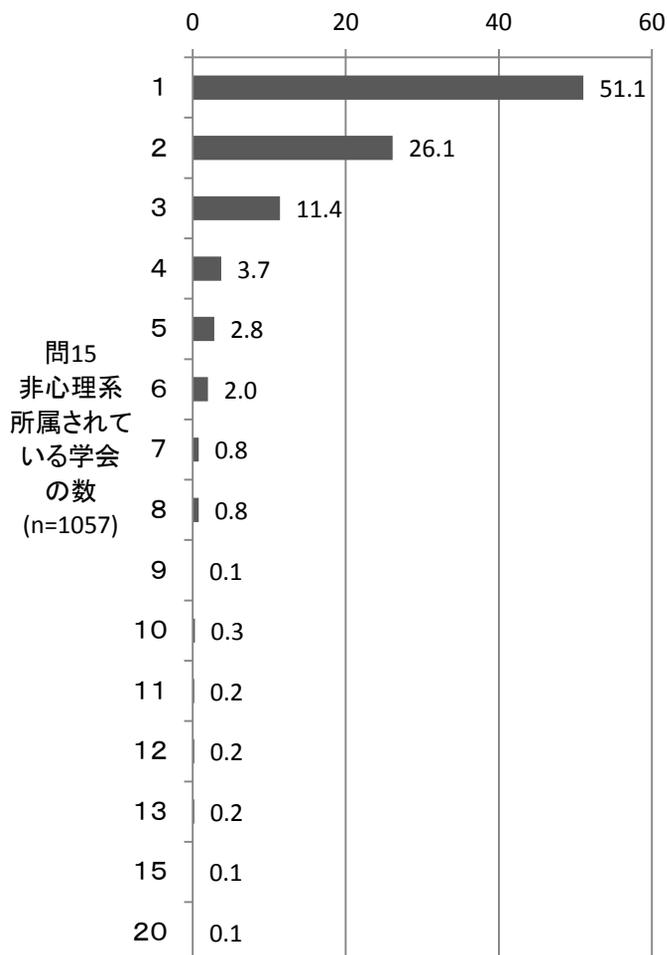
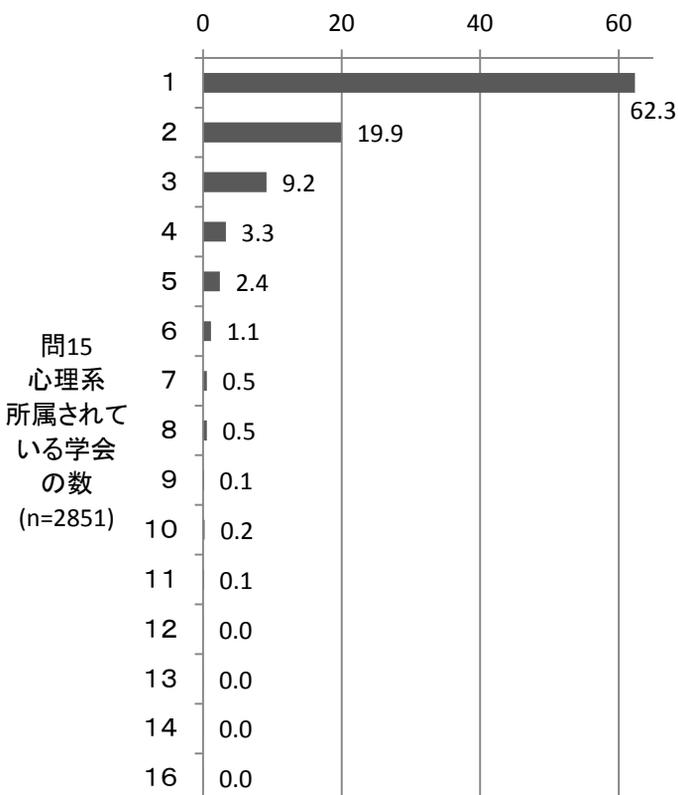
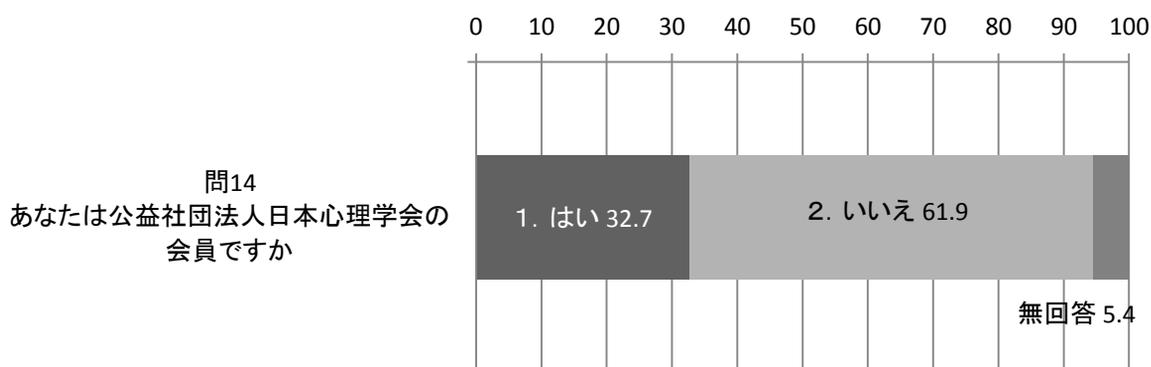


## 8. 所属学会

公益社団法人日本心理学会の会員は32.7%である。

所属している学会については、心理系の学会に所属していると回答した人は2851人※，所属数は1つが最頻で所属していると回答した人の62.3%を占める。非心理系の学会に所属していると回答した人は1057人で，所属数は1つが最頻で所属していると回答した人の62.3%を占める。

※実際には，認定心理士の中で日本心理学会に入会されている方は1255名であるので，誤って回答していると思われる。



## 9. 新設する「認定心理士部会」「認定心理調査士」への興味

「認定心理士部会」への興味について「はい」が71.8%、「いいえ」が24.9%である。

「認定心理調査士」への興味について「はい」が78.0%、「いいえ」が18.8%である。

